

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	末永 琢也
2. 審査委員	<p>主 査：連大教授（兵庫教育大学）關 浩和 副主査：連大教授（兵庫教育大学）吉水 裕也 委 員：連大教授（上越教育大学）志村 喬 委 員：連大教授（岡山大学）山田 秀和 委 員：連大教授（兵庫教育大学） 勝見 健史</p>
3. 論文題目	都市計画を視点にした初等社会科授業構成論研究
4. 審査結果の要旨	<p>教科教育実践学専攻社会系教育連合講座末永琢也から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和5年1月29日（日） 11時00分～11時50分 場 所：オンライン（Zoom）</p> <p>1. 学位論文の構成と概要 （1）論文の構成 第I章 初等社会科授業の現状と課題 第1節 初等社会科授業の現状 第2節 初等社会科授業の課題 第II章 初等社会科授業に都市計画の視点を取り入れる意義 第1節 都市計画の概要 第2節 都市計画を視点にした初等社会科授業の性格 第3節 都市計画を視点にした初等社会科授業方略 第III章 都市計画を視点にした初等社会科授業における教育内容 第1節 初等社会科授業の教育内容を規定する都市計画の視点 第2節 初等社会科授業の教育内容を規定する都市計画の視点の関連性 第IV章 都市計画を視点にした初等社会科授業開発 第1節 福祉・医療的機能に着目した初等社会科授業開発 第2節 生活基盤的機能に着目した初等社会科授業開発 第3節 産業的機能に着目した初等社会科授業開発 第4節 相互作用的機能に着目した初等社会科授業開発 第5節 情動的機能に着目した初等社会科授業開発 第6節 政治的機能に着目した初等社会科授業開発 第7節 文化的機能に着目した初等社会科授業開発 終 章 研究の意義と課題 第1節 研究の意義 第2節 今後の課題 （2）論文の概要 序章では、本研究の動機と目的、そして、研究の方法を明らかにしている。第I章は、初等社会科の理論的研究と実践的研究の分析から初等社会科授業の現状を明らかにしている。課題としては、社会機能法に依拠した学習内容の限界性と個に閉じられた学びの2点を示している。</p>

第Ⅱ章は、初等社会科授業に都市計画の視点を取り入れる意義を明らかにしている。都市計画の定義を踏まえつつ、先行研究の分析から都市計画と初等社会科との関連性を明らかにしている。そして、都市計画を視点にした初等社会科授業において、単元デザインの価値を明らかにした授業方略や協働的問題解決学習を基盤とした授業方法を明らかにしている。第Ⅲ章は、都市計画を視点にした初等社会科授業における学習内容を設定している。都市計画の視点を都市の機能から抽出した「政治的機能」、「産業的機能」、「情動的機能」、「文化的機能」、「生活基盤的機能」、「福祉・医療的機能」、「相互作用機能」の7つの機能に設定している。第Ⅳ章は、都市計画を視点にした初等社会科授業を開発した。7つの都市計画の視点ごとに、具体的な授業を提案している。

本研究の意義は、第一に、社会的機能主義に基づく初等社会科授業の現状と課題を明らかにした上で新たな社会的機能主義に基づく授業構成論を提案していることである。第二に、初等社会科授業における都市計画を組み入れる意義について論じていることである。第三に、初等社会科授業に都市計画の視点を取り入れ、初等社会科授業における授業方略と授業方法を明らかにした上で、授業開発モデルを提示していることである。

2. 審査経過

論文公聴会に引き続き行われた審査委員会では、論文内容について質疑が行われた。審査委員会では、本研究について、都市計画の意義を述べた上で、都市計画を視点として初等社会科授業における教育内容及び授業開発モデル事例を提案したことが特質すべき成果であると高く評価された。そうした基本的な評価を踏まえながら、主要な質問は、以下の7項目であった。①カリキュラム改革における研究者としてのスタンスはどの位置にあるのか。②都市計画を視点にすることで初等社会科授業はどのように変わるのか。③単元デザインの捉え方は、どのように考えているのか。④総合的な学習の時間で育成される能力と社会科固有の育成される能力はどのように捉えているのか。⑤都市計画における機能としてあげている7つの機能は、社会科授業においてどのように有効なのか。⑥都市計画は、国土計画の中に位置づけられるものであるが、それぞれの関係性や多様な地域が存在している日本においてどのような有効性があるのか。⑦学習指導要領社会科を乗り越えるために、授業実践において留意した点はどのような点か。

末永氏は、これらの質問に対して、研究の成果と課題（限界）を整理・峻別しながら、研究の目的・先行研究の整理・学習原理・内容構成・授業実践と評価の各レベルで適切かつ明確に回答した。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は末永琢也の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するのにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。